

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	保健医療論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	前期	教室名	3年教室
担 当 教 員	村上 薫	実務経験と その関連資格	社会学者・MBAとして、国内外で教育に従事			
《授業科目における学習内容》						
現在の社会情勢、医療を取り巻く状況、日本の保健医療の概要を知り、保健医療の中での看護の役割が理解できる						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
健康支援と社会保障制度 医療概論 (医学書院)						
《授業外における学習方法》						
教科書を読んでおく						
《履修に当たっての留意点》						
はじめて聞く単語が多いが、辞書で必ず調べること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療と看護の原点について要点をまとめられる	教科書	授業予定のテキスト内容を読んでおいてください。	
		各コマにおける授業予定	医療と看護の原点			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療の歩みと医療観の変遷について要点をまとめられる	教科書	授業予定のテキスト内容を読んでおいてください。	
		各コマにおける授業予定	医療の歩みと医療観の変遷			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	私たちの生活と健康について要点をまとめられる	教科書	授業予定のテキスト内容を読んでおいてください。	
		各コマにおける授業予定	私たちの生活と健康			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題を抽出できる	教科書	授業予定のテキスト内容を読んでおいてください。	
		各コマにおける授業予定	技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	成熟する社会と人々の意識変革について要点をまとめられる	教科書	授業予定のテキスト内容を読んでおいてください。	
		各コマにおける授業予定	成熟する社会と人々の意識変革			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療を見つめなおす新しい視点について要点をまとめられる	教科書	授業予定のテキスト内容を読んでおいてください。
		各コマにおける授業予定	医療を見つめなおす新しい視点		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流についてディスカッションできる	教科書	授業予定のテキスト内容を読んでおいてください。
		各コマにおける授業予定	健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	終講式試験で合格点をとる。	教科書	今までの学習内容の復讐 要点をまとめておく
		各コマにおける授業予定	まとめ 終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	保健医療論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	後期	教室名	3年教室
担 当 教 員	村上 薫	実務経験と その関連資格	社会学者・MBAとして、国内外で教育に従事			
《授業科目における学習内容》						
医療現場に必要な看護経済について理解を深め、看護マネジメントや病院経営を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
健康支援と社会保障制度 医療概論(医学書院)						
《授業外における学習方法》						
教科書を読んでおく。ニュースなどにも関心を示し、社会の動きを把握する						
《履修に当たっての留意点》						
授業外の学習方法をしっかりと行っておく。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	医療と経済の関係性が説明できる		教科書		
	各コマに おける 授業予定	医療と経済				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	医療経営に関し、理解したことをまとめられる		教科書		
	各コマに おける 授業予定	医療経営				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	病院を経営の視点で理解し、看護組織がどのように経営に貢献しているか		教科書		
	各コマに おける 授業予定	病院経営と看護組織				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	医療機関の機能分化と連携について理解したことをまとめられる		教科書		
	各コマに おける 授業予定	医療機関の機能分化と連携				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	診療報酬について理解したことをまとめられる		教科書		
	各コマに おける 授業予定	診療報酬				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	IT導入による医療の質と効率の向上について理解したことをまとめられる	教科書	
	各コマにおける授業予定	IT導入による医療の質と効率の向上		
第7回	授業を通じての到達目標	諸外国の動向について重要事項をまとめられる	教科書	
	各コマにおける授業予定	諸外国の動向		
第8回	授業を通じての到達目標	まとめ 終講試験		
	各コマにおける授業予定			
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	成人看護学実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次		学期及び曜時限	前期	教室名	臨地実習先
担 当 教 員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			
《授業科目における学習内容》						
疾患からの回復が困難な成人期の対象とその家族に対して、QOLの維持・向上を目指した援助や苦痛の緩和ができる基礎的能力を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
臨床実習での評価100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
実習要項、各自必要と考える教科書						
《授業外における学習方法》						
各実習施設での担当患者の看護実践に必要な学習を実習開始前・実習中に追加学習を行う。病院実習での学びについて所定の様式で実習記録として記載する。						
《履修に当たっての留意点》						
①学習計画を立案し、事前学習を行う。②学生としての身だしなみ、態度で実習に臨み、体調管理に留意して遅刻欠席をしない③プライバシーを保持し約束事項を守る。④報告・連絡・相談をする⑤積極的に知識・技術が取得できるように取り組む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	担当患者の看護の方向性について、自分の言葉で表現することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	事前学習 実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション・担当患者の情報収集・担当患者の決定			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の病態、治療などが日常生活に与える影響や関連を考え、自分の言葉で表現することができる①	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	事前学習 実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	担当患者の情報収集、看護の実施・追加・修正、情報収集			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の病態、治療などが日常生活に与える影響や関連を考え、自分の言葉で表現することができる②	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	事前学習 実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	担当患者の情報収集、看護の実施・追加・修正、情報収集			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の健康障害のメカニズム(病態)とその程度、関連する因子を理解し、発表することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	関連図・看護計画発表 担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の日常生活の援助において、自己決定ができるよう支え、安全・安楽な援助を実施することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	事前学習 実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象のQOLの維持・向上を考えた生活の援助やチーム医療について考え、自分の言葉で表現することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	中間カンファレンス 担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象のQOLの維持・向上を考えた生活の援助や家族の役割について考え、自分の言葉で表現することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の気持ちに共感し、思いに寄り添いその人らしく生きていくことを支援することについて、自分の考えを述べるができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の全人的苦痛に気づき、援助を行う必要性について、自分の考えを述べるができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	最終カンファレンス 担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	行った援助や関わりが看護であったのかを検証し、発表することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	実習で受け持った事例を元に探求したいテーマを設定して、自分の看護の検証を行い、発表する		
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	関係法規		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	後期 不定期	教室名	3年教室
担 当 教 員	本井 治	実務経験と その関連資格	厚生労働省・病院施設にて勤務、医療系専門学校にて関係法令を教授			
《授業科目における学習内容》						
日本の社会で生活する国民としての権利と義務をい自覚し、看護師としての法的役割と責務を理解する。そして対象者がよりよい生活ができるよう、看護師として既存の医療・保健・福祉の制度の知識を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
看護関係法令(医学書院) 公衆衛生がみえる(メディックメディア)						
《授業外における学習方法》						
教科書・副読本を予習・復習する。暗記が必要な事項は、繰り返し復習する。						
《履修に当たっての留意点》						
看護学概論や各看護学の概論、社会福祉、公衆衛生等の復習をして講義に望むこと。広い視野で今までの学習内容を振り返りながら、一緒に学習をしましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	法の概念がまとめられる。	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	法の概念			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	保健師助産師看護師法と看護師の仕事との関係性が言える	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	医事法(1) 保健師助産師看護師法①			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	保健師助産師看護師法の重要な内容がピックアップできる	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	医事法(1) 保健師助産師看護師法①			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療法・医療関係資格法に規定されている内容が言える	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	医事法(3) 医療法・医療関係資格法			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	保健福祉関係法規定されている内容が言える	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	医事法(4) 保健福祉関係法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療を支える法の内容を述べることができる	教科書資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医事法(5) 医療を支える法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療を支える法の内容を述べることができる	教科書資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医事法(5) 医療を支える法		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	母体保護法・母子保健法の重要事項が見出せる	教科書資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	保健衛生法(2) 母体保護法・母子保健法 他		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬務法の重要事項が見いだせる	教科書資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	薬務法		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	法律では感染に関する法律の内容を抽出できる	教科書資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	感染症に関する法律		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療と環境衛生法の関係性を抽出できる	教科書資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	環境衛生法		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障法の重要事項を抽出できる	教科書資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	社会保障法		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	働く者としての労働法で重要事項を抽出できる	教科書資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	労働法と社会基盤整備		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	環境法の内容を説明できる	教科書資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	環境法		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	本科の重要ポイントを抽出し、まとめることができる。	教科書資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	成人看護学実習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次		学期及び曜時限	前期	教室名	臨地実習先
担 当 教 員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			
《授業科目における学習内容》						
急激な健康破綻をもたらす生命の危機的状況と精神的苦痛を伴った対象への看護の役割と目的を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
臨床実習での評価100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
実習要項、各自必要と考える教科書						
《授業外における学習方法》						
各実習施設での担当患者の看護実践に必要な学習を実習開始前・実習中に追加学習を行う。病院実習での学びについて所定の様式で実習記録として記載する。						
《履修に当たっての留意点》						
①学習計画を立案し、事前学習を行う。②学生としての身だしなみ、態度で実習に臨み、体調管理に留意して遅刻欠席をしない③プライバシーを保持し約束事項を守る。④報告・連絡・相談をする⑤積極的に知識・技術が取得できるように取り組む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	担当患者の看護の方向性について、自分の言葉で表現することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	事前学習 実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション・担当患者の情報収集・担当患者の決定			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	生命の危険を及ぼす原因疾患と治療の必要性について理解し、自分の言葉で表現することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	事前学習 実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	担当患者の情報収集、看護の実施・追加・修正、情報収集			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	急激な健康破綻を伴った対象を3側面から理解を深め、援助方法について考え、自分の言葉で表現することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	事前学習 実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	担当患者の情報収集、看護の実施・追加・修正、情報収集			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の健康障害のメカニズム(病態)とその程度、関連する因子を理解し、表現することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	関連図・看護計画発表 担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	手術に伴う生体侵襲について理解し、予測される術後合併症についてアセスメントしたことを述べるることができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	①異常を早期発見するための観察を実施できる ②予測される合併症に対する予防の援助が実施することができる		実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集			
第7回	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる		実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	事前学習 実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	中間カンファレンス 担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集			
第8回	授業を通じての到達目標	①異常を早期発見するための観察を実施できる ②予測される合併症に対する予防の援助が実施することができる		実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	事前学習 実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集			
第9回	授業を通じての到達目標	対象を取り巻く環境について理解し、健康回復に必要な日常生活を整えるための援助が実施することができる		実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	事前学習 実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集			
第10回	授業を通じての到達目標	担当患者との関わりから、生命の危機的状況にある対象への看護を自分の言葉で表現することができる		実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集			
第11回	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる		実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	最終カンファレンス 担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集			
第12回	授業を通じての到達目標	行った援助や関わりが看護であったのかを検証し、発表することができる		実習要項 各自必要と考える教科書・参考書 実習ノート、担当患者	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	実習で受け持った事例を元に探求したいテーマを設定して、自分の看護の検証を行い、発表する			
第13回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第14回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第15回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	母性看護学実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次		学期及び曜時間	後期	教室名	臨地実習先
担 当 教 員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			
《授業科目における学習内容》						
周産期における母子の生理的変化や心理・社会的特徴を理解し、母子及びその家族が順調な経過をたどり、よりよい状態へ促進するための看護を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
評価表にて、臨地実習指導者および担当教員で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実践 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 メディカ出版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖 器 成人看護学9 医学書院 その他参考資料						
《授業外における学習方法》						
実習事前学習:・実習オリエンテーションの内容・実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、必要な学習を自身で考え選択し、実習ノートに学習内容を記載する。 実習開始後は、日々の実習内容の振り返りと目標達成度を評価する。また次の実習日のための追加学習を行い、実習計画を立案する。						
《履修に当たっての留意点》						
事前学習を整え、母性看護技術の学内演習を予め行った上で実習に臨むこと						
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容		
第1回	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと		
	各コマにおける授業予定	実習オリエンテーション/周産期の母児の受持ちと看護展開				
第2回	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと		
	各コマにおける授業予定	周産期の母児の受持ちと看護展開				
第3回	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと		
	各コマにおける授業予定	周産期の母児の受持ちと看護展開				
第4回	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと		
	各コマにおける授業予定	周産期の母児の受持ちと看護展開				
第5回	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと		
	各コマにおける授業予定	周産期の母児の受持ちと看護展開				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	周産期の母児の受持ちと看護展開/最終カンファレンス		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	病棟実習での受け持ち母子の看護についてまとめることができる	スーツ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	実習まとめ		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	子育て支援事業に参加し、子育て世代の母親の現状や悩みを知ることで、看護の役割を考えることができる	スーツ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	保育所(子育て支援事業)実習		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	保健室実習を通して、思春期の女性が抱える現状をとらえ、その看護の役割について考えることができる	スーツ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	高等学校保健室実習		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	更年期の女性に対する健康教育の計画ができる	スーツ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	学内実習:更年期健康教育①		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	更年期女性への健康教育を通して、看護師の役割について考える	スーツ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	学内実習:更年期健康教育②		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	周産期の母子に対する看護師の役割や社会資源の活用について、グループ内発表を通じて意見を述べるができる	参考資料	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	母子保健活動(社会資源)に関する学習活動		
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	在宅看護論実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次		学期及び曜時限	後期	教室名	臨地実習先
担 当 教 員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			
《授業科目における学習内容》						
疾病や障害を持ちながら在宅で療養および生活する人々を理解し、既習の知識、技術を統合し、在宅における看護を実践するために必要な基礎知識を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
訪問看護ステーション実習評価 80% デイケア実習評価 20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
在宅看護論 地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ						
《授業外における学習方法》						
訪問看護ステーション、デイケアでの臨床実習および追加学習						
《履修に当たっての留意点》						
在宅で療養している対象とその家族の統合的な理解、および多職種と連携する中での看護師の役割を理解し、今後の看護に活かすこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	デイケア・オリエンテーションにより機能を理解することができる	管理者		事前学習、追加学習、実習記録
		各コマにおける授業予定	指導のもと援助を見学・実施し考察する			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	利用者の身体状況やニーズを考慮した援助の必要性を考えて行動できる。	担当者		追加学習、実習記録
		各コマにおける授業予定	送迎に同行・リハビリの見学・レクリエーションの参加・入浴介助(見学・実施)			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	デイケア内での多職種との連携を理解し、チームアプローチの重要性に気がつくことができる	担当者		追加学習、実習記録
		各コマにおける授業予定	送迎に同行・リハビリの見学・レクリエーションの参加・入浴介助(見学・実施)、レクリエーションの企画			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	在宅療養においてデイケアが果たす役割や看護師の役割について理解できる。	管理者		事前学習、追加学習、実習記録
		各コマにおける授業予定	企画したレクリエーションを実践する・カンファレンス			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	訪問看護ステーション・オリエンテーションにより機能と役割を理解できる	管理者		事前学習、追加学習、実習記録
		各コマにおける授業予定	訪問看護師同行訪問・受け持ち利用者決定・情報収集			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	自己のビジョンを常に意識し、積極的に実習を行うことができる。	指導者	事前学習、追加学習、実習記録
		各コマにおける授業予定	訪問看護師同行訪問・情報収集		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	在宅で療養している対象の特徴を踏まえ、健康状態に応じた援助方法を考えることができる	指導者	事前学習、追加学習、実習記録
		各コマにおける授業予定	訪問看護師同行訪問・情報収集		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	在宅で療養している対象を、身体的、精神的、社会的側面から統合的に捉えることができる	指導者	事前学習、追加学習、実習記録
		各コマにおける授業予定	訪問看護師同行訪問・情報収集・中間カンファレンス(関連図発表)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	家族看護の必要性が理解でき、家族支援の必要性について述べるができる	指導者	事前学習、追加学習、実習記録
		各コマにおける授業予定	訪問看護師同行訪問・情報収集		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	在宅環境を捉え、生活の場に応じた工夫が必要であることを述べるができる	指導者	事前学習、追加学習、実習記録
		各コマにおける授業予定	訪問看護師同行訪問・情報収集		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち利用者の看護実践を通して、保健医療福祉チームの一員としての看護の役割を述べるができる	管理者	事前学習、追加学習、実習記録
		各コマにおける授業予定	訪問看護師同行訪問・情報収集・最終カンファレンス		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	知識の再構築を図るとともに、実践に行かせるアイデアを考えることができる。	管理者	事前学習、追加学習、実習記録
		各コマにおける授業予定	リフレクション		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	小児看護学実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次		学期及び曜時限	前期	教室名	臨地実習先
担 当 教 員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			
《授業科目における学習内容》						
子どもと家族を理解し、子どもの成長発達および健康レベルに応じた看護を実践できる能力を修得する。						
《成績評価の方法と基準》						
実習評価 100% (保育所:20%、病院:80%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
小児看護学概論 小児看護学 I 医学書院 小児看護学各論 小児看護学 I 医学書院						
《授業外における学習方法》						
小児における既習の知識と技術を再確認しておくこと。また、保育所実習、小児臨床実習での追加学習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》						
子どもと関わる上で学生としての態度を忘れず、体調管理に留意する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育所の特徴や工夫の意味を考え、述べることができる	小児看護学概論 小児看護学各論	事前学習 追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	保育所オリエンテーション(保育所の方針や注意事項など)、子どもと関わる			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育士の日常生活援助や関わり方の実際を知り、根拠を理解した上で子どもの意思を尊重しながら実践できる。	リーダー看護師	追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	保育所実習/各クラスに入り、保育士の指導の下、子どもと関わる			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	子どもが安全に過ごすための必要な援助を理解することができる、実際に提供できる。	メンバー看護師	追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	保育所実習/各クラスに入り、保育士の指導の下、子どもと関わる			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	子どもがより健やかに成長・発達を遂げていくための支援とは何かを述べることができ、実際の関わりの中で実践できる。	受け持ち患者	追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	保育所実習/各クラスに入り、保育士の指導の下、子どもと関わる 最終カンファレンス			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の情報を収集し、患児の成長発達や症状などに合わせ、コミュニケーション技術を活用しながら関わるることができる。	受け持ち患者	事前学習 追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	病院オリエンテーション 受け持ち患児の情報収集、VS測定、望ましい姿を考える			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	情報収集・アセスメントを行い、患児の個別性に合わせた看護が指導のもと実践でき、看護計画の評価修正を行える	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	望ましい姿へ向けた受け持ち患児への援助		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	情報収集・アセスメントを行い、患児の個別性に合わせた看護が指導のもと実践でき、看護計画の評価修正を行える	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	望ましい姿へ向けた受け持ち患児への援助		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	情報収集・アセスメントを行い、患児の個別性に合わせた看護が指導のもと実践でき、看護計画の評価修正を行える	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	望ましい姿へ向けた受け持ち患児への援助		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	情報収集・アセスメントを行い、患児の個別性に合わせた看護が指導のもと実践でき、看護計画の評価修正を行える	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	望ましい姿へ向けた受け持ち患児への援助		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	情報収集・アセスメントを行い、患児の個別性に合わせた看護が指導のもと実践でき、看護計画の評価修正を行える	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	望ましい姿へ向けた受け持ち患児への援助		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	情報収集・アセスメントを行い、患児の個別性に合わせた看護が指導のもと実践でき、看護計画の評価修正を行える	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	望ましい姿へ向けた受け持ち患児への援助／最終カンファレンス		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	行った援助や関わりが看護であったのかを検証し、小児看護の大切さと役割を明確にする。	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	学内リフレクション／学生個々がテーマを設定しそれに沿って振り返り、まとめ、発表をする		
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	精神看護学実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次		学期及び曜時限	前期	教室名	臨地実習先
担 当 教 員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			
《授業科目における学習内容》 精神疾患の対象との人間関係構築過程を通して、自己の感情や行動特性を意識しながら自己洞察を行う。 対象の疾患と生活環境や社会との関係性を理解しながら、身体・精神・社会的な側面から考え、看護師としての人権と倫理的行動を意識した個別的な看護が実践できる。						
《成績評価の方法と基準》 臨床実習での評価100% 100点満点中60点以上で合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 実習要項、各自必要と考える教科書						
《授業外における学習方法》 実習事前学習:・実習オリエンテーションの内容・実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、必要な学習を自身で考え選択し、実習ノートに学習内容を記載する。 実習開始後は、日々の実習内容の振り返りと目標達成度を評価する。また次の実習日のための追加学習を行い、実習計画を立案する。						
《履修に当たっての留意点》 ①学習計画を立案し、事前学習を行う。②学生としての身だしなみ、態度で実習に臨み、体調管理に留意して遅刻欠席をしない③プライバシーを保持し約束事項を守る。④報告・連絡・相談をする⑤積極的に知識・技術が取得できるように取り組む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	人間関係構築の糸口をつかむ	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	事前学習 実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション・担当患者の情報収集・担当患者の決定			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	担当患者に応じた関わり方が考えられる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	担当患者の情報収集、日課に沿った日常生活援助の実施			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	担当患者に応じた関わり方が考えられる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	担当患者の情報収集、日課に沿った日常生活援助の実施			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	担当患者に応じた関わり方が見いだせる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	担当患者の情報収集、日課に沿った日常生活援助の実施			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	担当患者の健康問題に影響を与えた生活上の要因を見出す。	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習	
		各コマにおける授業予定	担当患者の情報をアセスメントし、看護の方向性を見出す。 看護の実施・追加・修正、情報収集			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標 担当患者の全体像を記録に表現できる 人権カンファレンスで、資料をもとに意見交換ができる。	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	担当患者の情報をアセスメントし、看護の方向性を見出す。 看護の実施・追加・修正、情報収集 人権カンファレンス		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標 個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	中間カンファレンス 担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標 社会復帰に向けた制度・支援・支援の実際について理解できたことをまとめられる。	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	デイケア・社会復帰体験実習		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標 保健医療福祉システムの仕組みや関係職種との連携のあり方を考えることができる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集 テーマカンファレンス		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標 対象や家族に対してセルフケア確立への援助が実施できる④	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集 テーマカンファレンス		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標 個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集 テーマカンファレンス		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標 3週間を振り返り、自己理解が深まった点を、発表できる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護 実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
	各コマにおける授業予定	実習で受け持った事例や自身のかかわりを振り返り、自己理解できた点を考察する。 探求したいテーマを設定して、自分の看護の検証を行い、発表する		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	統合実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	後期	教室名	臨地実習先
担 当 教 員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			
《授業科目における学習内容》 既習の知識・技術を統合させ、安全に看護を実践できる能力を養うとともに、患者・家族をはじめ保健・医療・福祉チームの一員として現実に対応できる能力をやしなう。マネジメントの実勢をしり複数患者ののを受持ち、安全・安楽を考慮しながら看護が実践できる。						
《成績評価の方法と基準》 実習評価 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 看護管理 看護の統合と実践 /医学書院						
《授業外における学習方法》 各 病院の臨床実習						
《履修に当たっての留意点》 実践をとおして看護職者としての新たな自覚と自己課題を明確にする						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	病棟管理における実際を知る	看護管理者	事前学習 追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション/管理者へのシャドーイング			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	チームメンバーや他部門との報告・連絡・相談の実際を知る	リーダー看護師	追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	チームリーダーへのシャドーイング			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	チームメンバー間の協力調整方法を知る	メンバー看護師	追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	複数受け持ちを持つチームメンバーへのシャドーイング			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	情報収集・アセスメント・学生ペアによる看護実践ができる	受け持ち患者	追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者への援助/学生ペアによる援助			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	情報収集・アセスメント・学生ペアによる看護実践ができる	受け持ち患者	追加学習 実習記録	
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者への援助/学生ペアによる援助			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	情報収集・アセスメント・学生ペアによる看護実践ができる	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者への援助／学生ペアによる援助		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	時間調整ができ、学生ペアによる援助ができる	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	二人目の受け持ち患者情報収集と援助／学生ペアによる援助		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	時間の調整ができ、学生ペアによる援助ができる。	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	二人受け持ち／学生ペアによる援助		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	優先順位がわかり、学生ペアによる援助ができる	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	二人受け持ち／学生ペアによる援助		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	時間調整・報告調整のタイミングがわかり安全・安楽に援助できる	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	二人受け持ち／学生ペアによる援助		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	時間調整・報告調整のタイミングがわかり安全・安楽に援助できる	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	二人受け持ち／学生ペアによる援助／最終カンファレンス		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	自己の新たな課題が説明できる	受け持ち患者	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	学内リフレクション		
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			